



株式会社ジー・テイスト

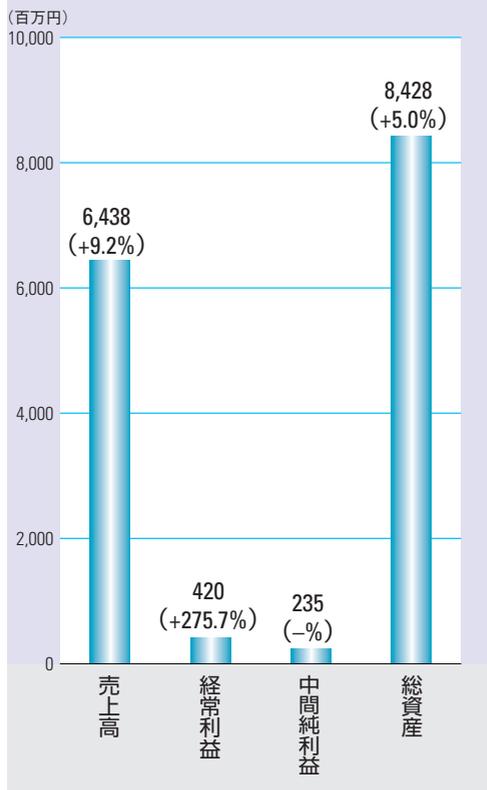
第48期中間報告書

平成18年4月1日～平成18年9月30日

 **G.taste**
【株式会社ジー・テイスト】

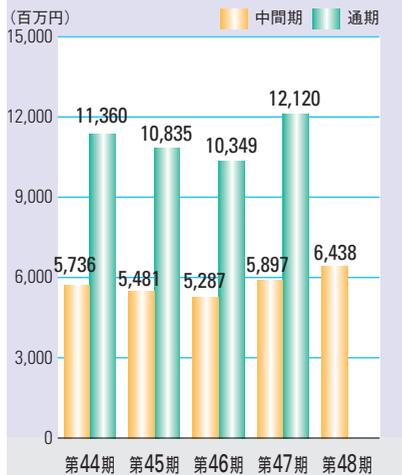
財務ハイライト

第48期中間単体業績

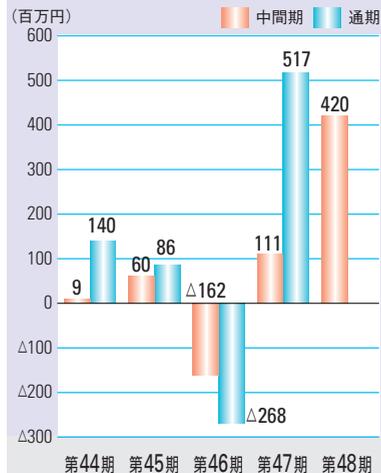


(注) パーセント表示は前年同期比となります。

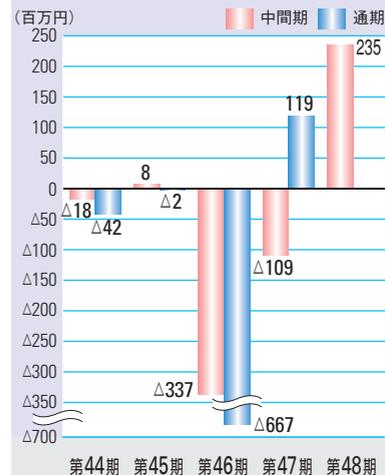
売上高



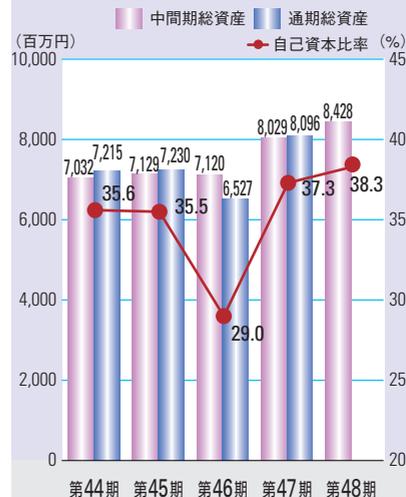
経常利益



中間(当期)純利益



総資産・自己資本比率





代表取締役社長

稲吉史泰

手頃な価格でおいしい食事を提供し、快適な食生活を楽しんでもらいたい。日本の味覚を、いつでも、気軽に楽しめるようにしたい――。

創業以来40余年、変わることなく抱き続けて参りました。「株式会社ジー・テイスト」は、食のパイオニア企業として、21世紀の豊かな食文化の創造に貢献して参ります。

経営成績

当中間会計期間におけるわが国経済は、企業業績の改善により民間設備投資が増加し、給与所得や雇用情勢など家計部門も緩やかながら改善傾向が見られます。ただし、その勢いには力強さが欠け、個人消費は本格的な回復には至らず、依然として予断を許さない経済環境が続いております。

外食産業においても個人消費の低迷の影響を受け、売上増加の勢いは弱く、客単価の上昇により業績の回復基調を維持している場合が多くなっております。

このような経済情勢のもとで当社は平成18年3月期に大きな変革と多角化によって業績を飛躍的に改善させた勢いを持続させるため、既存事業の強化と新規事業分野への進出を積極的に推進いたしました。

第一に回転寿司部門におきましては、6月にグランドメニューを一新し、価格帯と商品内容を見直し、当社独自の新商品の投入やバラエ

ティー感あるメニュー構成への切替えを実施いたしました。また、販売促進キャンペーン計画に基づき定期的に四季折々のこだわりメニューと旬の生ネタを提供することにより、他社との差別化を図りました。この結果、客単価をアップさせることができました。

第二に居酒屋部門におきましては、各店舗の客層に応じたフードメニューを導入するとともに、ドリンクについても既存のグランドメニューの他に、各店舗の顧客に応じて選んで投入できるように新たに梅酒、2種類の焼酎、ワイン、ウイスキーを取り揃え、更にソフトドリンクを充実させました。また試験的にコールセンターを導入し、直営店とFC店舗の予約を一括で取れるようにしてお客様の取りこぼしを無くす対策を講じました。

第三に上記両部門共通に7月より「ミステリーショッパー」調査(外部覆面モニター)を実施いたしております。これは、店舗と全く関係ない第三者の目で店舗のお客様サービスの充足度をチェックすることにより、更なるサービス向上と従業員の意識改革を図ることを目指すものであります。

第四に新規事業につきましては、6月にアントニオ猪木氏に関する肖像権等を当社が独占的に使用できる契約を締結いたしました。これは猪木氏をイメージキャラクターとした飲食店「アントニオ猪木酒場」を展開するもので、当社が「とりあえず吾平」で培った商品開発力・展開力を基に、お客様がプロレス映像を観戦しながら猪木氏やプロレスからイメージされるメニューを食べて、みんなが元気になる居酒屋というコンセプトであります。今後の3年間で50店舗の出店を目標としておりますが、その1号店がFC事業として本年10月にオープンすることとなりました。

第五に9月に(株)江戸沢の株式の公開買付の発表をいたしました。これは東証2部上場のちゃんこ料理店の過半数の株式を取得し、当社の子会社とするものです。これによって当社グループは和食レストランにも進出することになり、居酒屋事業の内容が一層充実したものとなります。今後、グループ内で業態転換等を図り、収益性を改善することによって、当社の業績拡大に繋げて参りたいと存じます。

出店に関しましては、居酒屋部門で4店の出店があり、同部門で2店舗を営業譲渡いたしました。

これらの結果、当中間会計期間の業績は売上高6,438百万円(前年同期比9.2%増)となり、経常利益420百万円(前年同期比275.7%増)、中間純利益は235百万円(前年同期は109百万円の損失)となりました。

当社の事業についてご紹介します

—— 当社は回転寿司や居酒屋の事業を通じて、お客様、フランチャイズのオーナー様、取引先の方々、地域の人々そして従業員にいたる当社を支え取り巻く人々との共存共栄の実現を目指します。 ——



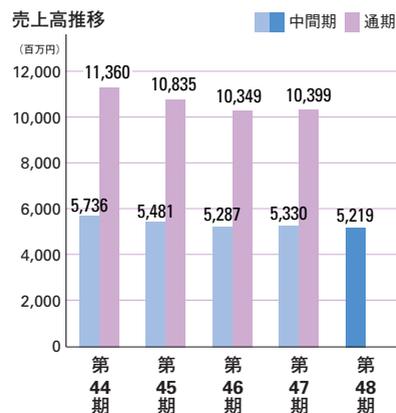
「おいしいお寿司を手頃な価格で楽しんでいただきたい」をモットーに、回転寿司のパイオニアとして39年余。旬の素材を活かし、一皿一皿心をこめて握っております。

定番メニューのほか季節限定品やオリジナルメニュー、店長おすすめ、アラカルトなど、四季を通じてバラエティー豊かな味がお楽しみいただけます。また、お持ち帰りメニューも豊富にご用意しております。

昨年7月に株式会社ジー・コミュニケーションと資本業務提携を交わし、同社のグループとなったことで、東日本中心だった平禄ブランドを、今後は全国へ展開して参ります。

当中間期の概況

■ 寿司部門





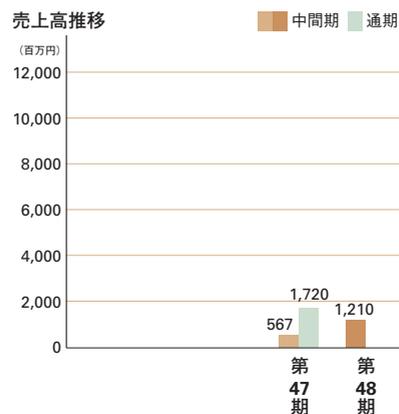
「とりあえず吾平」は、郊外を中心に展開する、20代から30代のヤング、ミドル層をメインターゲットとした郊外型ダイニングレストランです。

100品目前後のバラエティー豊かなフード、100種類以上のドリンクが揃う充実のメニュー構成と良心的な価格設定で、くつろぎの空間の中で安心してお楽しみいただけます。

当社の多角化戦略の一環として、昨年8月に株式会社ゼクーより営業権を譲り受け、新たに居酒屋部門としてスタートしました。当社の新たな主力事業として、今後大きな成長が期待されます。

当中間期の概況

居酒屋部門



アントニオ猪木氏の肖像権等使用許諾契約を締結いたしました。

平成18年6月7日新日本プロレスリング株式会社との間で“アントニオ猪木”こと猪木寛至氏の肖像権等使用許諾契約を締結いたしました。

これは、当社の居酒屋事業に対する経営ノウハウとアントニオ猪木ブランドを活かした飲食店の展開を目的としております。「とりあえず吾平」の商品開発力、展開力を基に、猪木氏をイメージしたメニューの提供や内装にもひと工夫施した新ブランド「アントニオ猪木酒場」を立ち上げました。

今後は、アントニオ猪木ブランドのフードビジネスの成功を目標として積極的に展開して参ります。



平成18年6月7日
記者会見

新業態『アントニオ猪木酒場』展開。

古きよき昭和をイメージさせるノスタルジックな外装に、チャンピオンベルト・猪木氏引退記念グッズ・パネルなどアントニオ猪木氏のディスプレイが満載の内装。

店内は、クラブやカフェのようなオープンスペースでダーツコーナーやスロット機も設置、アミューズメント的な要素が盛り沢山。

メニューはアントニオ猪木氏はじめプロレスラーのイメージから『豪快』且つ『ボリューム』のあるメニューをご用意。「1,2,3,ダー！」「元気ですかー！」など遊び心満載のネーミングも魅力です。アントニオ猪木氏プロデュースの

「みんなが元気になれる居酒屋」、それがアントニオ猪木酒場です。



第1号店が、
平成18年10月25日
東京池袋に堂々OPENいたしました。

【アントニオ猪木酒場 池袋店】
東京都豊島区東池袋1-41-4 池袋東急ビル4F



『アントニオ猪木酒場』ロゴ



外観イメージ

株式分割を発表しました。

平成18年9月20日、投資家の皆様へ投資しやすい環境を整え、投資家層の拡大と株式の流動性の向上を図るため、株式の分割を発表しました。平成18年10月31日を基準日として株主所有の普通株式数を、平成18年11月1日をもって1株につき、3株に分割いたしました。

1株

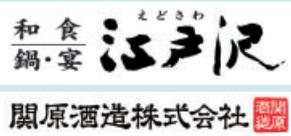


3株

株式会社江戸沢を子会社化しました。

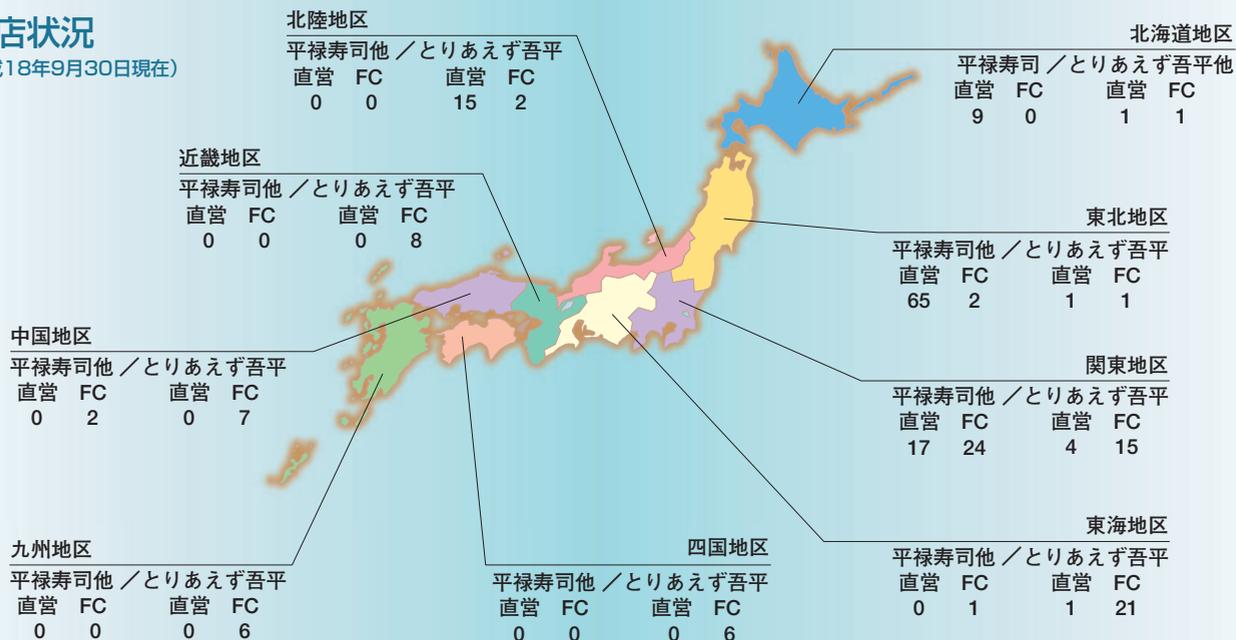
当社では直営やFCでの新店舗の開発を積極的に行っておりますが、M&Aによる拡大にも取り組んでおり、平成18年9月19日に、株式会社江戸沢（東証2部上場）株式の公開買付を発表しました。これにより株式会社江戸沢は平成18年10月16日をもって連結子会社となりました。

今後は株式会社江戸沢の和食レストラン「ちゃんこ江戸沢」を当社の事業エリアで新たに开店したり、両社の既存店舗の一部をその立地に応じて互いの持つブランドにリニューアルしたりすることによって収益力アップ、更には企業価値の増大に力を注いで参ります。



出店状況

(平成18年9月30日現在)



Column

とりあえず吾平 新田東店

全国に87店舗展開中のダイニングレストラン「とりあえず吾平」、 新田東店OPEN。

郊外を中心に展開するダイニングレストランがお膝元の仙台市に初登場。

この地域には今までにないスタイルのダイニングレストランとして注目を集めます。

80品目前後のパラエティー豊かなフード、100種類以上のドリンクが揃う充実したメニュー構成と良心的な価格設定が魅力です。

お客様の笑顔をエネルギーに更なるサービス・商品の向上に努めております。



とりあえず吾平 新田東店

住所

〒983-0038

宮城県仙台市宮城野区新田東20-102

営業時間

17:00～翌1:00

(金・土・祝前日のみ翌2:00迄)

決算の状況をお知らせします

■ 中間貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

| 科 目 | 前中間期 (平成17年9月30日現在) | 当中間期 (平成18年9月30日現在) | 前 期 (平成18年3月31日現在) |
|-------------|------------------------|------------------------|-----------------------|
| 資産の部 | | | |
| 流動資産 | 1,863 | 2,267 | 2,350 |
| 現金及び預金 | 1,142 | 1,812 | 1,947 |
| 受取手形 | 6 | 3 | 5 |
| 売掛金 | 289 | 68 | 54 |
| たな卸資産 | 161 | 139 | 135 |
| その他 | 272 | 259 | 224 |
| 貸倒引当金 | △ 8 | △ 15 | △ 16 |
| 固定資産 | 6,166 | 6,160 | 5,746 |
| 有形固定資産 | 3,983 | 4,250 | 3,833 |
| 建物 | 2,240 | 2,347 | 2,141 |
| 工具器具及び備品 | 205 | 179 | 192 |
| 土地 | 1,263 | 1,463 | 1,263 |
| その他 | 274 | 259 | 235 |
| 無形固定資産 | 182 | 254 | 162 |
| 投資その他の資産 | 1,999 | 1,656 | 1,750 |
| 敷金及び差入保証金 | 1,711 | 1,543 | 1,624 |
| その他 | 327 | 131 | 165 |
| 貸倒引当金 | △ 39 | △ 18 | △ 39 |
| 資産合計 | 8,029 | 8,428 | 8,096 |

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位：百万円)

| 科 目 | 前中間期 (平成17年9月30日現在) | 当中間期 (平成18年9月30日現在) | 前 期 (平成18年3月31日現在) |
|--------------|------------------------|------------------------|-----------------------|
| 負債の部 | | | |
| 流動負債 | 2,660 | 2,244 | 2,331 |
| 買掛金 | 696 | 498 | 582 |
| 短期借入金 | 1,449 | 1,030 | 870 |
| 未払法人税等 | 20 | 173 | 54 |
| 賞与引当金 | — | 22 | — |
| 役員賞与引当金 | — | 4 | — |
| その他 | 494 | 516 | 823 |
| 固定負債 | 2,576 | 2,957 | 2,742 |
| 社債 | 152 | 30 | 50 |
| 長期借入金 | 1,840 | 2,080 | 2,120 |
| 退職給付引当金 | 213 | 172 | 198 |
| その他 | 369 | 675 | 374 |
| 負債合計 | 5,237 | 5,202 | 5,073 |
| 資本の部 | | | |
| 資本金 | 897 | — | 897 |
| 資本剰余金 | 960 | — | 960 |
| 利益剰余金 | 933 | — | 1,162 |
| その他有価証券評価差額金 | 3 | — | 5 |
| 自己株式 | △ 1 | — | △ 2 |
| 資本合計 | 2,792 | — | 3,023 |
| 負債・資本合計 | 8,029 | — | 8,096 |
| 純資産の部 | | | |
| 株主資本 | — | 3,221 | — |
| 資本金 | — | 897 | — |
| 資本剰余金 | — | 960 | — |
| 資本準備金 | — | 960 | — |
| 利益剰余金 | — | 1,366 | — |
| 利益準備金 | — | 78 | — |
| その他利益剰余金 | — | 1,288 | — |
| 別途積立金 | — | 860 | — |
| 繰越利益剰余金 | — | 428 | — |
| 自己株式 | — | △ 2 | — |
| 評価・換算差額等 | — | 4 | — |
| その他有価証券評価差額金 | — | 4 | — |
| 純資産合計 | — | 3,226 | — |
| 負債及び純資産合計 | — | 8,428 | — |

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 中間損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

| 科 目 | 前中間期 | 当中間期 | 前 期 |
|-----------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| | （平成17年4月1日～ 平成17年9月30日） | （平成18年4月1日～ 平成18年9月30日） | （平成17年4月1日～ 平成18年3月31日） |
| 売上高 | 5,897 | 6,438 | 12,120 |
| 売上原価 | 2,488 | 2,474 | 4,895 |
| 売上総利益 | 3,408 | 3,963 | 7,225 |
| 販売費及び一般管理費 | 3,263 | 3,660 | 6,773 |
| 営業利益 | 145 | 302 | 451 |
| 営業外収益 | 103 | 178 | 290 |
| 営業外費用 | 136 | 61 | 224 |
| 経常利益 | 111 | 420 | 517 |
| 特別利益 | — | 1 | 13 |
| 特別損失 | 214 | 37 | 379 |
| 税引前中間（当期）純利益又は純損失（△） | △ 103 | 384 | 152 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 6 | 149 | 32 |
| 中間（当期）純利益又は純損失（△） | △ 109 | 235 | 119 |
| 前期繰越利益 | 104 | — | 104 |
| 中間（当期）未処分利益又は未処理損失（△） | △ 4 | — | 224 |

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間（平成18年4月1日～平成18年9月30日）

（単位：百万円）

| | 株主資本 | | | | | | | | 評価・換算差額等 | | 純資産 合計 | |
|-----------------------------------|------|-----------|-------------|-----------|-----------------------|-------------|-------|------------|----------------------|----------------|-----------|-------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益剰余金 | | | 自己株式 | 株主資本 合計 | その他 有価証券 評価差額金 | 評価・換算 差額等合計 | | |
| | | 資本 準備金 | 資本剰余金 合計 | 利益 準備金 | その他利益剰余金 別途 積立金 | 繰越利益 剰余金 | | | | | | 利益剰余金 合計 |
| 平成18年3月31日 残高 | 897 | 960 | 960 | 78 | 860 | 224 | 1,162 | △ 2 | 3,017 | 5 | 5 | 3,023 |
| 中間会計期間中の変動額 | | | | | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | — | — | — | — | — | △ 31 | △ 31 | — | △ 31 | — | — | △ 31 |
| 中間純利益 | — | — | — | — | — | 235 | 235 | — | 235 | — | — | 235 |
| 株主資本以外の項目 の中間会計期間中の 変動額（純額） | — | — | — | — | — | — | — | — | — | △ 1 | △ 1 | △ 1 |
| 中間会計期間中の 変動額合計 | — | — | — | — | — | 204 | 204 | — | 204 | △ 1 | △ 1 | 203 |
| 平成18年9月30日 残高 | 897 | 960 | 960 | 78 | 860 | 428 | 1,366 | △ 2 | 3,221 | 4 | 4 | 3,226 |

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 中間キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

| 科 目 | 前中間期 (平成17年4月1日～ 平成17年9月30日) | 当中間期 (平成18年4月1日～ 平成18年9月30日) | 前 期 (平成17年4月1日～ 平成18年3月31日) |
|----------------------|------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 611 | 368 | 1,752 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 1,177 | △ 544 | △ 1,085 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 1,169 | 41 | 741 |
| 現金及び現金同等物の増加額（△ 減少額） | 604 | △ 135 | 1,408 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 538 | 1,947 | 538 |
| 現金及び現金同等物の中間期末残高 | 1,142 | 1,812 | 1,947 |

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況／会社情報

株式の状況 (平成18年9月30日現在)

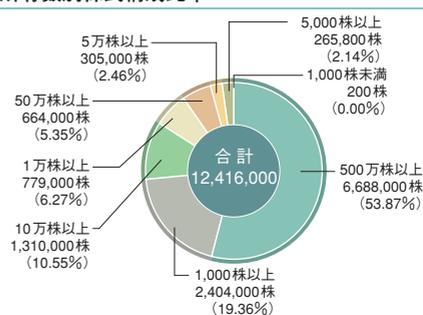
発行可能株式総数 20,000,000 株
 発行済株式の総数 12,416,000 株
 株主数 1,561 名
 大株主

| 株主名 | 持株数 (株) | 出資比率 (%) |
|------------------|------------|-------------|
| (株) ジー・コミュニケーション | 6,688,000 | 53.9 |
| 江川進興 | 664,000 | 5.3 |
| ジー・テイスト取引先持株会 | 428,000 | 3.4 |
| 江川春延 | 224,000 | 1.8 |
| (有) オレンジライフ | 174,000 | 1.4 |
| 遠山仁域 | 160,000 | 1.3 |
| 東金次 | 110,000 | 0.9 |
| (株) 七十七銀行 | 108,000 | 0.9 |
| 極洋商事(株) | 106,000 | 0.9 |
| 三井住友海上火災保険(株) | 84,000 | 0.7 |

所有者別株式構成比率



所有数別株式構成比率



会社概要 (平成18年9月30日現在)

商号 株式会社ジー・テイスト
 会社設立日 昭和34年11月25日
 資本金 897,128千円
 事業内容 1. 回転寿司店の経営
 2. 居酒屋店の経営
 3. 個別指導学習塾の経営
 4. 関連商品の販売

役員 (平成18年9月30日現在)

代表取締役会長 江川進興
 代表取締役社長 稲吉史泰
 取締役 川上一郎
 取締役 小齋幸吉
 取締役 扇正信篤
 取締役 伊藤雄一樹
 取締役 稲吉正樹
 監査役 星晴夫
 監査役 鈴木丞廣
 監査役 後藤時廣

株主優待制度のご案内



年間2回、当社の株主様に対し、お食事ご優待券を贈呈いたします。

当社が経営する全店及びフランチャイズ加盟店全店並びに株式会社ジー・コミュニケーションのグループ各社が経営する全飲食店でご利用いただけます。

～贈呈基準～（1回あたり）

- ・1,000株以上保有の株主様——
3,500円相当額の優待券
- ・3,000株以上保有の株主様——
10,000円相当額の優待券
- ・6,000株以上保有の株主様——
20,000円相当額の優待券

株主メモ

- * 事業年度 4月1日～3月31日
 - * 定時株主総会 毎年6月
 - * 基準日 3月31日
- その他必要があるときは、あらかじめ
公告いたします。
- * 配当金の基準日 期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日
 - * 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行(株)
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行(株) 証券代行部
〒137-8081
- 〔郵便物送付先〕
〔電話お問合せ先〕 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行(株) 証券代行部
Tel 0120-232-711（通話料無料）
- * 同取次所 三菱UFJ信託銀行(株) 全国各支店
 - * 公告方法 下記当社ホームページに掲載いたします。
<http://www.g-taste.co.jp>

株式会社ジー・テイスト

〒984-0042

仙台市若林区大和町5-33-18

TEL：(022) 237-5566 FAX：(022) 237-5570

ホームページアドレス <http://www.g-taste.co.jp>

G.taste